

【えびの市版】

川内川 水防災河川学習プログラム

小学校5年生
社会

「自然災害から人々を守る」

○目次

1.学習指導要領における第5学年の目標	1
2.学習指導要領における単元の内容	1
3.第5学年の評価の観点の趣旨	3
4.内容のまとめりごとの評価基準	3
5.川内川学習プログラムにおける単元の目標	4
6.学習のねらい	4
7.授業の構成	4
8.指導計画	5
○単元「自然災害から人々を守る」指導計画	5
9.各時間の内容	9
○「さまざまな自然災害、日本の自然災害」(第1時)	9
○「自然災害がおきやすい国土」(第2時)	13
○「困難なくらしと支えあう人々」(第3時)	17
○「産業への影響」(第4時)	21
○「自然災害に備えるために」(第5時)	24
○「自分たちの命と地域は自分たちで守る」(第6時)	28

○川内川水防災河川学習プログラム「自然災害を防ぐ」

1.学習指導要領における第5学年の目標（学習指導要領※より抜粋）

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- 我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解するとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について，主体的に学習の問題を解決しようとする態度や，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，我が国の国土に対する愛情，我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

※文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編」

2.学習指導要領における単元の内容（学習指導要領※より抜粋）

(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 災害の種類や発生の位置や時期，防災対策などに着目して，国土の自然災害の状況を捉え，自然条件との関連を考え，表現すること。

- 我が国では，国土の地形や気候などとの関係から地震災害，津波災害，風水害，火山災害，雪害などの様々な自然災害が起こりやすいこと，自然災害はこれまで度々発生しこれからも発生する可能性があることなどを基に，国土の自然災害の状況について理解する。
- 国や県などは，砂防ダムや堤防，防潮堤の建設，津波避難場所の整備，ハザードマップの作成など，自然災害の種類や国土の地形や気候に応じた対策や事業を進めていることなどを基に，国土の自然災害への対策や事業について理解する。
- 社会的事象の見方・考え方を働かせ，国土の自然災害の状況について，例えば，これまでに我が国においてどのような自然災害が，いつどこで発生したか，自然災害による被害を

どのように減らす対策をとっているかなどの問いを設けて調べたり，自然災害と国土の自然条件を関連付けて考えたりして，調べたことや考えたことを表現する。

- 我が国で発生する様々な自然災害と国土の自然条件を関連付けて，自然災害が発生する理由や，国や県などの防災・減災に向けた対策や事業の役割を考え，文章で記述したり，白地図や年表，図表などにまとめたことを基に説明したりする。
- 自然災害が発生しやすい我が国においては，日頃から防災に関する情報に関心をもつなど，国民一人一人の防災意識を高めることが大切であることに気付くように配慮することが大切である。

※文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編」

3.第5学年の評価の観点の趣旨（参考）※

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の国土の地理的環境の特色や産業の現状，社会の情報化と産業の関わりについて，国民生活との関連を踏まえて理解しているとともに，地図帳や地球儀，統計などの各種の基礎的資料を通して，情報を適切に調べまとめている。	我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。	我が国の国土や産業の様子に関する社会的事象について，我が国の国土に対する愛情をもち産業の発展を願う国家及び社会の将来の担い手として，主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

※文部科学省（2020）「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）」より抜粋

4.内容のまとめりごとの評価規準※

○知識・技能

- ・自然災害は国土の自然条件などに関連して発生していることや，自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解している。
- ・森林は，その育成や保護に従事している人々の様々な工夫と努力により国土の保全など重要な役割を果たしていることを理解している。
- ・関係機関や地域の人々の様々な努力により公害の防止や生活環境の改善が図られてきたことを理解しているとともに，公害から国土の環境や国民の健康な生活を守ることの大切さを理解している。
- ・地図帳や各種の資料で調べ，まとめている。

○思考・判断・表現

- ・災害の種類や発生の位置や時期，防災対策などに着目して，国土の自然災害の状況を捉え，自然条件との関連を考え，表現している。
- ・森林資源の分布や働きなどに着目して，国土の環境を捉え，森林資源が果たす役割を考え，表現している。
- ・公害の発生時期や経過，人々の協力や努力などに着目して，公害防止の取組を捉え，その働きを考え，表現している。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について，主体的に問題解決しようとしたり，よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

※国立教育政策研究所 教育課程研究センター（2020）「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（社会）」を参考に作成。

5.川内川学習プログラムにおける単元の目標

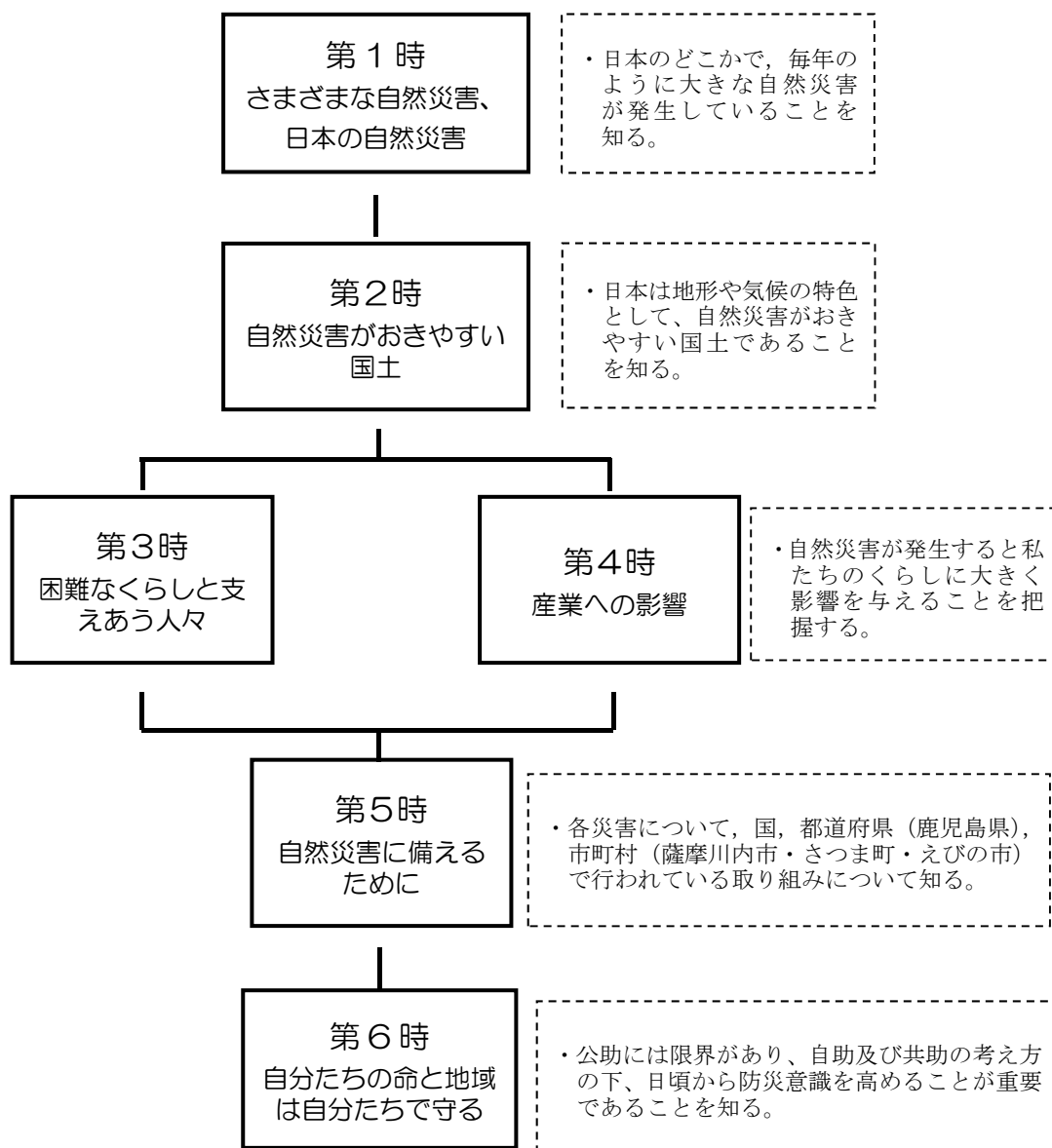
日本の風水害の発生状況や防災・減災の取り組みを学ぶにあたり、薩摩川内市・さつま町や身近な川内川を事例として取り上げ、国（川内川河川事務所）や都道府県（鹿児島県）、市町村（えびの市）の取り組みについて調べることを通し、自然災害が起こりやすい我が国では国民一人一人が防災意識を高める必要があることに気付くようにする。

6.学習のねらい

平成18年7月洪水時の経験から、自然災害の防止には、公助だけでなく、自助や共助も重要であることを考えさせる。

7.授業の構成

本小単元の学習プログラムは5時間で構成しています。



8.指導計画

○「自然災害から人々を守る」指導計画（全6時間）

	本時のめあて	学習活動	◆指導上の留意点	評価の観点と方法
つかむ	さまざまな自然災害、日本の自然災害 1時間 日本で起きる自然災害について調べ、地形と気候とのかかわりについて予想し、学習問題を立てましょう。	① P. 264 の写真及び参考資料から、気づいたことや気になることを話し合う。 ② 同時に、災害年表を見ながら、災害が起きた場所を確認する。 ・地震や津波・火山・大雪など様々な自然災害が起こっている。 ・自然災害は昔から何度も起こっており、大きな被害を及ぼしている。 ・高い土地や低い土地、あたたかい気候や寒い土地など、日本の様々な地形や気候の地域について学んできたから、自然災害も地形や気候と関係があると思う。	◆資料の写真から読み取るとともに自分の経験やテレビなどのニュースから、自然災害で大きな被害をうけることをおさえる。 ◆人間の命や財産などに対して被害を及ぼす自然災害に対して、関心を持つようにする。 ◆自然災害に対して、国や都道府県では、どのような防災の取り組みを行っているのかという相互の協力の視点からも考えるように助言する。	[[主体的] ・日本で起きた主な自然災害を調べることにより、いつでもだれでも被害にあうかもしれないことから、学習問題や予想を持ち、学習計画を立てようとしている。
調べる	自然災害がおきやすい国土 1時間 日本は地形と気候の特色から自然災害が発生しやすいことを理解しましょう。	① 日本で地震が多いわけを、本文や資料から読み取り、話し合う。 ・複数のプレートの出会う場所にあるから。 ② 気候に関わる災害が発生する理由について話し合う。 ・梅雨や台風など大雨によって洪水や土砂災害が発生している。 ・日本は山地が多く川も短いので、洪水や土砂災害が発生しやすい。 ・最近では狭い範囲に集中して大雨が降ることがある（集中豪雨）。 ・日本海側では大雪による建物の倒壊や交通機関の乱れが発生している。	◆地震が起きるしくみについて資料から考えさせる。 ◆大きな地震は繰り返し発生しており、今後も発生することをおさえる。 ◆日本の地形と気候の特色を想起し、どのような災害を引き起こすのか考えるとともに、最近では異常気象などにより深刻な災害がおきていることに触れる。 ◆自然災害がおきると私たちのくらしや産業にどんな影響が出るのか想起し、次時につなぐ。	[知技] ・日本が地震の起きやすい場所に位置していることや地震や津波が起こる仕組みについて地図やイラストなどから読み取っている。

	本時のめあて	学習活動	◆指導上の留意点	評価の観点と方法
調 べる	困難なくらしと 支えある人々 1時間 自然災害が発生すると私たちの生活にどのような影響が出るのでしょうか。	① 東日本大震災の被害の様子について話し合う。 - 津波によりわずかに建物が残っているだけで他は流されてしまっている。 ② 教科書 P270 及び本文を基に東日本大震災の様子について調べる。 - 大津波によって多くの人が亡くなった。 - 阪神淡路大震災と違って、圧死ではなく、溺死が多い。 - 福島第一原子力発電所も被害を受け、放射性物質が広い範囲に放出された。 ③ 教科書 P271 及び資料から災害時のくらしについて調べる。 - 体育館にたくさんの人がいる。 - 救援物資が届かずしばらくは、水、電気、燃料もない不自由な生活だった。 - 仮設住宅ができるまでは大変だったが、みんなで助け合ったほか、防災訓練などを行っている。	◆津波の被害の広がり、資料3から読み取らせ、津波の被害の大きさに気づかせる。 ◆突然、家をなくした人たちの今後のくらしを想像する。 ◆生き残った人も困難な生活を余儀なくされることを読み取る。	[知技] 自然災害が発生すると命が絶たれたり、大切な人を失ったりすることや、住居やプライバシー、ライフラインの確保など困難な生活を余儀なくされるため、人々の協力が不可欠であることを理解している。
	産業への影響 1時間 自然災害が発生すると産業にどのような影響があるのでしょうか。	① 津波の被害を受けた水産物加工施設を見て話し合う。 ② P272 の漁港の水揚げ量の変化や自動車の生産台数の変化から東日本大震災の産業への被害について調べる。 ③ これまでの学習をひり帰り、学習問題についての自分の考えを発表し、「さらに考えたい問題」について話し合う 自然災害から命や大切なものを守るために、どのような備えや取り組みが行われているのだろう	◆写真内の車や壁の様子から津波によって受けた被害の大きさに気づくようにする。 ◆東北地方の部品製造工場が被災したことと、日本国内や世界の車の生産台数が減少したことの関連性に気づくようにする。 ◆くらしや産業に大きな被害を防ぐ自然災害を防ぐ方法はないか考えさせる。	[主体的] これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たな疑問を話し合うことにより、自然災害に対する備えや取り組みについて関心を持ち、意欲的に追及しようとしている。

	本時のめあて	学習活動	◆指導上の留意点	評価の観点と方法
調べる	自然災害に備えるために 1時間 自然災害の被害を防ぐために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。	① 写真を見て話し合う。 ・ お年寄りや避難が難しく、洪水に取り残されてしまった。 ・ 東日本大震災でもすべての人がすぐに避難していない。 ② いざとなった時に自分の命を守るためにどうすればいいのかを考える ・ 国や県だけの取り組みだけでは限界がある（公助）。 ・ 自分の命を自分で守ることが大切（自助）。 ③ これまでの学習を振り返り、さらに考えたい問題について話し合う。 ・ いつ自然災害が起こるかわからないから、日頃から防災に関する情報を集めることが大切。 ④ 自分たちの命守るための備えについて話し合う。 ・ 県が公表しているハザードマップを活用して、危険な場所や避難場所などを家族と話し合っておく。 ・ 普段から非常持ち出し袋等を準備しておき、すぐに逃げられるようにしておく。	◆取り残された人をボートで助け出していることから、なぜ避難できなかったのかを話し合う。 ◆公助が機能するまでは、自助・共助が大切であることをおさえる。 ◆公助が機能するまでは、自助・共助が大切であることをおさえる。	[主体的] ・ これまでの学習を振り返り、学習問題について予想と違ったことや新たに気づいたことを話し合うことにより、自然災害から自分たちの命を守るために、どのような備えが必要か考えようとしている。

	本時のめあて	学習活動	◆指導上の留意点	評価の観点と方法
まとめる	自分たちの命と地域は自分たちで守る 1時間 自然災害から身を守るために自分たちにはどのようなことができるでしょうか。	⑤ 教科書 P276 の写真を見ての写真を見て話し合う。 ・ お年寄りや避難が難しく、洪水に取り残されてしまった。 ・ 東日本大震災でもすべての人がすぐに避難していない。 ⑥ いざとなった時に自分の命を守るためにどうすればいいのかを考える ・ 国や県だけの取り組みだけでは限界がある（公助）。 ・ 自分の命を自分で守ることが大切（自助）。 ⑦ これまでの学習を振り返り、さらに考えたい問題について話し合う。 ・ いつ自然災害が起こるかわからないから、日頃から防災に関する情報を集めることが大切。 ⑧ 自分たちの命を守るための備えについて話し合う。 ・ 県が公表しているハザードマップを活用して、危険な場所や避難場所などを家族と話し合っておく。 ・ 普段から非常持ち出し袋等を準備しておき、すぐに逃げられるようにしておく。	◆取り残された人を自衛隊がボートで助け出していることから、なぜ避難できなかったのかを話し合う。 ◆公助が機能するまでは、自助・共助が大切であることをおさえる。 ◆公助が機能するまでは、自助・共助が大切であることをおさえる。	[主体的] ・ これまでの学習を振り返り、学習問題について予想と違ったことや新たに気づいたことを話し合うことにより、自然災害から自分たちの命を守るために、どのような備えが必要か考えようとしている。

※本指導計画は、平成 24, 25 年度にさつま町立盈進小学校で作成された試行授業の指導計画案を元に「川内川水防災河川学習プログラム検討会」での議論を経て作成したものを、平成 29 年に告示された学習指導要領に沿って更新したものである。

9.各時間の内容

○「さまざまな自然災害、日本の自然災害」（第1時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害から人々を守る」(全6時間)の導入の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・導入で自然災害(津波・地震・噴火・土砂崩れ・水害・台風)の写真を見せる。 ・日本各地で様々な災害が何度も起こっており、多くの人がなくなっていることに気づくようにする。 ・自然災害には、大地の変化に関わるものと気候に関わるものがあり、なぜ起こるのか疑問を持つようにする。
(3) 学習方法の工夫	・導入では、最近の新聞やニュース記事での自然災害を引用し、身近な問題として実感させる。
(4) 本時のねらい	・日本で起こっている自然災害を調べることにより、地形と気候とのかかわりについて、学習問題や予想を持ち、学習計画を立てることができる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：日本文教「小学社会5年」P.264～267 指導書： ・日本文教「小学社会5年」教師用指導書 朱書編 P.264～267 ・日本文教「新しい社会5 下」教師用指導書 研究編 P.328～329

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①令和 2 年出水の写真（えびの市）	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②全国の自然災害の写真	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
1 日本全国で発生している近年の自然災害	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録
2 白地図	PowerPoint	
ワークシート 1	PDF Word	

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (10分)	1 全国の自然災害の発生状況の写真を見て、「自然災害」にはどのようなものがあるかを考える。 めあて：日本ではどのような自然災害が起こっているのだろう	● 自然災害の写真を見せ、気づいたことや気になることを発表させる。	【教材①】  	【教材①】を黒板に貼る。 T：教科書や【教材①】の写真を見て、気づいたことや気になることは何でしょうか。 (C：屋根まで水に浸かっている、ヘリコプターで救助されている、等) T：日本では今までにどのような自然災害がおきているか知っていますか？
展開 (20分)	2 発生した自然災害の年表や写真をもとに日本で起こる自然災害について調べる。	● 自然災害は何度も発生しており、多くの人が亡くなっていることに気づくようする。	【教材②】    地震(兵庫県) 津波(宮城県石巻市) 水害(岡山県)    土石流(福岡県) 火山の噴火(宮崎県新燃岳) 台風(沖縄県宮古島市)	T：日本では台風や洪水のほかにどんな自然災害が発生しているのでしょうか。 (C：東日本大震災, 熊本地震, 台風, 集中豪雨・・・。) 児童の答えに合わせて黒板に全国の自然災害の写真世界地図)【教材①】を黒板に貼る。 T：P265 ページに書かれている人数は自然災害によって亡くなった人の数です。年表を見ると自然災害が何度も発生し、被害が出ていることがわかります。自然災害が発生するとどのような被害が発生するのでしょうか (C：地震で建物が倒れる、津波で建物が流される、台風や大雨で川が氾濫する、大雪で雪かき中に転落する・・・等。) T：日本で発生している自然災害について、共通点をまとめてみましょう。 (C：地震や火山は土地に関係する災害, 雨・雪・風などは気候に関係する災害)
まとめ (15分)	6 自然災害について感じたことや気になったことについて話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 学習問題：日本の地形や気候と自然災害には、どのような関わりがあるのだろう	● 自然災害には大地の変化に関わるものと、気候に関わるものがあり、なぜ起こるのか疑問を持たせる。		T：日本で起きた自然災害について調べてみて、思ったことや気になったことはどんなことですか。 (C：日本では自然災害が何度も起こっている, 自然災害には土地に関係する災害と気候に関係する災害がある等)

(9) 板書計画



- ・大雨で水があふれた
- ・家の周りが水に浸かっている
- ・人がゴムボートで救助されている

日本ではどのような自然災害が起こっているのだろう。

地震
・建物が壊れる

津波
・人や建物を流す

台風
・強風でなぎたおす

洪水
・水につかっている

土石流
・土や丸太があふれている

火山の噴火
・火山灰や水のおせん

気づいたこと、思ったこと

- ・日本各地で起こっている
- ・多くの人がなくなっている
- ・何度も起こっている

自然災害には気候に関わるものと地形に関わるものがある

↓

なぜ日本では自然災害が多いのか

日本の地形や気候と自然災害には、どのような関わりがあるのだろう。

(10) 評価のポイント

○主体的に学習に取り組む態度

日本で起きた主な自然災害を調べることにより、いつでもだれでも被害にあうかもしれないことから、学習問題や予想を持ち、学習計画を立てようとしている。

○「自然災害がおきやすい国土」（第2時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害から人々を守る」(全6時間)の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・日本は地形や気候的に自然災害が発生しやすいことを理解させる。
(3) 学習方法の工夫	・下敷きを使うなどして地震や津波が起きる仕組みを視覚的にとらえやすくする。 ・今までに習ったことを思い出させながら説明をする。
(4) 本時のねらい	・日本で起こる地震の回数や地震発生メカニズム、日本の降水量を調べ、日本が世界の中でも自然災害がおきやすいことを読み取ることができる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・日本文教「小学社会 5年」P.268～269 指導書：・日本文教「小学社会 5年」教師用指導書 指導編 P.268～269 ・日本文教「小学社会 5年」教師用指導書 研究編 P.330～331

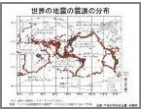
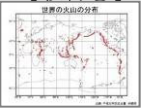
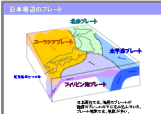
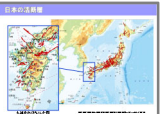
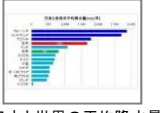
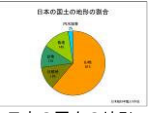
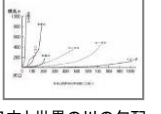
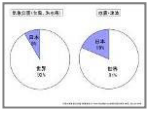
(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①世界の地震の震源の分布	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②世界の火山の分布	板書	
③日本周辺のプレート	板書	
④日本／九州の断層マップ	板書	
⑤日本と世界の平均降水量	板書	
⑥日本の国土の地形	板書	
⑦日本と世界の川の勾配	板書	
⑧世界全体に占める日本の自然災害の割合	板書	

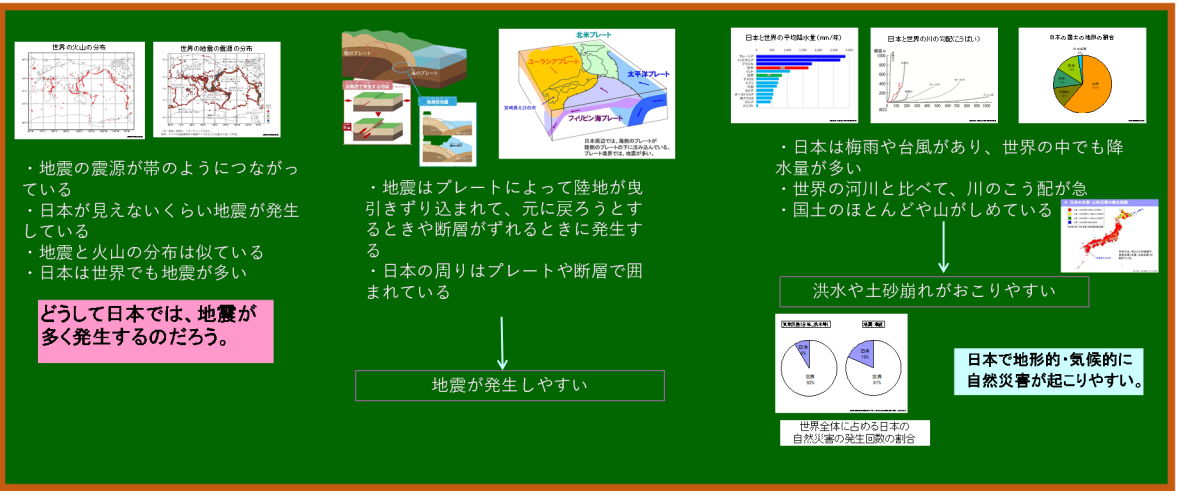
(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①南海トラフ地震	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (10分)	1 前時のふりかえり 2 地震災害や火山がどこで発生しているか気づいた点や疑問を出し合う。	●なぜこんなに地震が多いのかという疑問を膨らませて、次につなぐ。	【教材①】  世界の地震の震源の分布【教材②】  世界の火山の分布	<u>世界の地震の震源の分布【教材①】</u> 、 <u>世界の火山の分布【教材②】</u> を黒板にはる T：地図を見て気づいたことや気になることは何でしょうか。 (C：地震の分布と火山の分布が重なる、日本の周りで多くの地震や火山がある) T：どうして日本では地震が多く発生するのでしょうか。
	めあて：どうして日本では、地震が多く発生するのだろうか。			
展開 (30分)	4 教科書の図や教材を基に、日本で地震が多く発生する理由を調べる。 3 にほんしゅうへんのpにほに気候による自然災害を調べる。	●プレートの作用によって地震が発生すること、日本とプレート・断層の位置から地震が発生しやすいことに気づかせる。 ●南海トラフ地震が今後発生する可能性が高いことに触れる。 ●日本は世界と比較して降水量が多いことや山が多く、洪水や土砂災害が発生しやすいことに気づかせる。 ●最近は異常気象などにより深刻な気候災害がおきていることに触れる	【教材③】  日本周辺のプレート 【教材④】  日本/九州の断層マップ 【教材⑤】  日本と世界の平均降水量 【教材⑥】  日本の国土の地形 【教材⑦】  日本と世界の川の勾配	<u>地震のメカニズムについて確認する。日本周辺のプレート【教材③】</u> 、 <u>日本／九州の断層マップ【教材④】</u> を黒板にはる。 T：地震はどのようにして発生するのでしょうか。 (C：陸地がたわんで元に戻ろうとするときに発生する,断層がずれることで地震が発生する) T：日本のプレートの位置や断層の分布を見て、気づくことはありますか？ (C：日本はプレートに囲まれている,断層が日本中に分布している) T：そうですね。これらのことから日本は非常に地震が発生しやすいことがわかります。今後は南海トラフ地震が発生する可能性も高く注意が必要です。 <u>気候に関わる自然災害を確認する。日本と世界の平均降水量【教材⑤】</u> 、 <u>日本の国土の地形【教材⑥】</u> を黒板にはる。 T：気候に関わる災害にはどのようなものがありましたか？ (C：台風,集中豪雨,土砂災害,竜巻など) T：気候に関わる自然災害はどうして起こるのでしょうか？ (C：台風や梅雨で大雨が降るから,山が多いから) T：そうですね,最近は異常気象による深刻な災害も発生していることから注意が必要です。
まとめ (5分)	○日本は地形や気候の特色として、自然災害が発生しやすいことを理解する。 ○自然災害がおきるとわたしたちのくらしや産業にどんな影響が出るのかを想起し、次の時間へつなげる。		【教材⑧】  世界全体に占める日本の自然災害の割合	<u>世界全体に占める日本の自然災害の割合【教材⑧】</u> を黒板にはる。 T：日本は地形や気候の特色として,自然災害が発生しやすいことがわかりました。もし,自然災害が発生したときに私たちの生活にはどのような影響が出るのでしょうか。 (C：家が壊れて住めなくなる,電車が走らなくなる,停電になる等) T：次の時間から自然災害が発生したときに私たちのくらしにどのような影響が出るのか学習していきましょう。

(9) 板書計画



(10) 評価のポイント

○知識・技能

日本が地震の起きやすい場所に位置していることや地震や津波が起こる仕組みについて地図やイラストなどから読み取っている。

○「困難くらしと支えあう人々」（第3時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害から人々を守る」(全6時間)の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・自然災害がくらしに与える影響を写真やグラフなどで調べる。
(3) 学習方法の工夫	・被害の様子や避難所の様子の写真。
(4) 本時のねらい	・東日本大震災発生直後の人々の暮らしの様子を調べ、自然災害がわたしたちのくらしに大きな影響を及ぼすことを理解することができる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・日本文教「小学社会5年」P.270～271 指導書：・日本文教「小学社会5年」教師用指導書 朱書編 P.270～271 ・日本文教「小学社会5年」教師用指導書 研究編 P.332～333

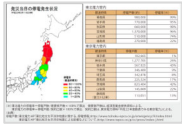
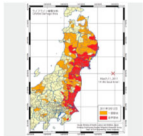
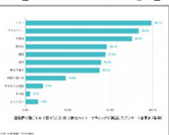
(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災の津波被害の写真	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②令和 2 年出水の被害状況（えびの市）	板書	
②令和 3 年出水の被害状況（えびの市）	板書	
③東日本大震災 気仙沼市内の避難所の様子	板書	
④東日本大震災時の避難所での給水活動	板書	
⑤東日本大震災 炊き出し活動	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①東日本大震災発生当日の停電発生状況	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録 総務省消防庁
②東日本大震災発生から一日後の市町村の断水布図	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録 総務省消防庁
③避難者数及び避難所数の推移	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録 総務省消防庁
④避難所で過ごす中で困ったこと	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録
ワークシート 3	PDF Word	付属 DVD（教材データ集）に収録

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (10分)	1 P270 の東日本大震災の被害の様子や洪水時の救助の写真について話し合う。	●自然災害が発生すると私たちのくらしがどうなるのか興味を持たせる。	【教材①】  【教材②】  【教材③】  【教材④】 	【教材①】～【教材③】を黒板にはる T：これらの写真をみて気づいたことはありますか。 (C：津波によって建物が流されている, 車が水没している, ボートで住民が救助されている) T：自然災害が発生すると私たちのくらしはどうなるのでしょうか。
	めあて：自然災害が起こると人々のくらしはどうなるのだろう。			
展開 (30分)	2 自然災害が発生すると私たちのくらしが困難になる点について意見を出し合う。 3 東日本大震災によって実際に発生した被害について調べる。 4 教科書や教材の避難所の様子や本文から避難所での暮らしについて調べる。	●自然災害が発生すると水道や電気が使えなくなったり、家がなくなったりして、生活が困難になることを理解させる。 ●避難所での生活について想像させ、避難先での生活が大変であることを理解させる。	【参考資料①】  【参考資料②】  【教材④】  【教材⑤】  【参考資料③】  【参考資料④】 	T：自然災害が発生したら困ることはありますか。 (C：家が壊れる, 停電する, 外に出られなくなる・・・) <u>震災発生当日の停電発生状況【参考資料①】</u> 、 <u>震災発生から一日後の市町村の断水布図【参考資料②】</u> を配る T：東日本大震災の時に実際に発生した被害について調べてみましょう。 (C：大勢の人が亡くなった, 東北地方以外でも停電になったり, 水道が使えなくなったりしている) 【教材④】、【教材⑤】、【教材⑥】を黒板に貼る T：自然災害によって避難生活を送っている人たちの様子を見てみましょう。 (C：体育館にたくさんの人が生活している, 水道が使えず給水車から給水している) <u>避難者数及び避難所数の推移【参考資料③】</u> 、 <u>【参考資料④】</u> を配る T：避難者数を見ると避難生活が終わるまでに時間がかかっていることがわかります。また, 避難所生活で困ったことをみるとトイレの問題やプライバシーの確保などストレスがたまる状況であったことがわかります
まとめ (5分)	○自然災害が発生するといつもと同じ生活を続けることが難しいことを理解する。			T：自然災害が発生すると人の命がうばわれたり, いつもと同じ生活を続けることが難しくなります。避難所生活ではお互いに助け合うことが重要です。

(9) 板書計画



- 津波で船や建物がながされた
- 車が水に沈んでいる
- 人が救助されている

東日本大震災

- 津波により太平洋側の広い範囲が被災
- 1万人以上の死者と2500人以上の行方不明者
- 福島第一原子力発電所の原子炉が壊れたことにより 放射性物質が放出された

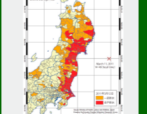
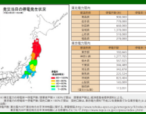
自然災害が起こると人々の暮らしはどうなるのだろう



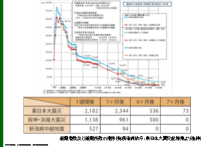
- 避難所にたくさんの人やものがあふれている



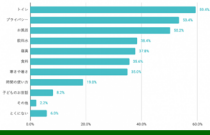
- 自衛隊による給水活動



東日本大震災では、広い範囲で停電や水道の断水が発生した。



- 避難人数及び避難所数



- 避難所で困ったこと

自然災害が起こると命を落としたり、ふだんのくらしができなくなってしまう。そんななかでも被害にあった人たちはみんなで助け合っていた。

(10) 評価のポイント

○知識・技能

自然災害が発生すると、命を絶たれたり、大切な人を失ったりすることや、住居やプライバシー、ライフラインの確保など、困難な生活を余儀なくされるため、人々の協力が不可欠であることを理解している。

○「産業へのえいきょう」（第4時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害から人々を守る」(全6時間)の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・東日本大震災がもたらした被害を基に、他の災害でも産業への被害が発生することを想像させる。 ・自然災害による産業への影響は地域だけでなく、他の地域にも及ぶことを意識させる。
(3) 学習方法の工夫	・自然災害によっては発生した被害について、写真やグラフを用いて、具体的にイメージする。
(4) 本時のねらい	・自然災害がもたらす産業への被害について調べ、自然災害によって水産業や農業、工業、運輸業などに大きな影響が出るとともに、これまでの学習を振り返り、学習問題について、自分の考えを話し合うことでさらに考えを深めたり、新たな疑問を生み出したりしている。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・日本文教「小学社会5」P.272～273 指導書：・日本文教「新しい社会5 下」教師用指導書 朱書編 P.272～273 ・日本文教「新しい社会5 下」教師用指導書 研究編 P.334～335

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①大津港（茨城県）の津波被害の様子	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②津波にさらされた工場	板書	
③宮城県川内市若林区荒浜周辺の被災前と被災後の現地状況	板書	
④津波により浸水した農地	板書	
⑤ワークシート4	配布	

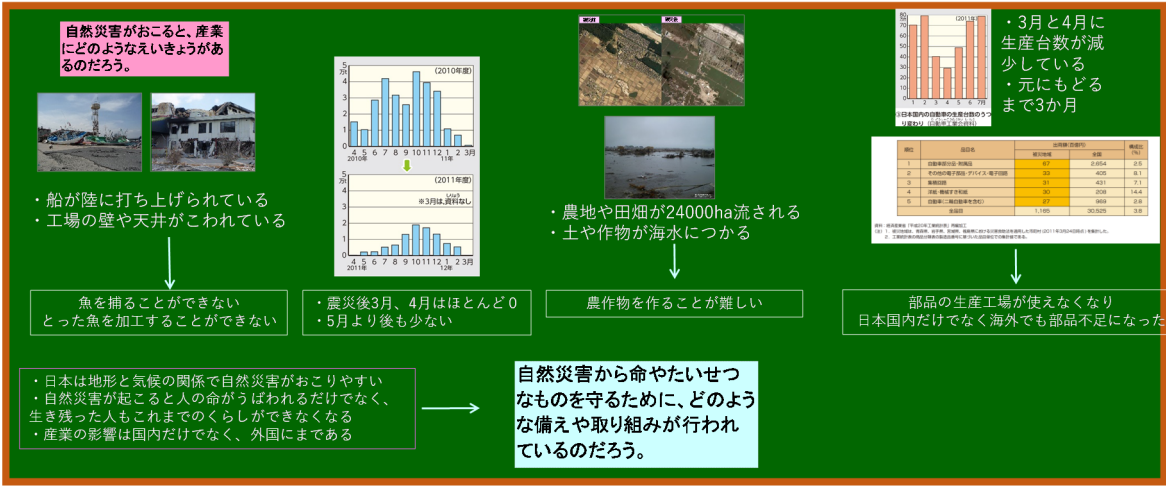
(7) 参考資料

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災の農業・林業・水産業への被害状況	配布	付属 DVD（教材データ集）に収録
②近年の農林水産関係被害額の推移	板書	
③被災地域における出荷金額上位5品目	配布	

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (5分)	・前時の振り返り 1 自然災害が産業へ与える影響について考える。 めあて：自然災害が起こると、産業にどのようなえいきょうがあるのだろう。	●津波による被害写真から、津波によって受けた被害の大きさに気づくようにする。	【教材①】  【教材②】 	【教材①】、【教材②】を黒板にはる。 T：この写真は東日本大震災後の港や工場の様子です。これらの写真を見て、気づいたことや気になることはありますか？ (C：船が陸に上がっている, 建物の壁や屋根が壊れている) T：津波によって、漁や工場での生産ができなくなっていますね。自然災害が発生すると産業にどのような影響があるか考えてみましょう。
展開 (30分)	2 東日本大震災の事例を参考に、自然災害の産業への影響について調べる。	●車の生産台数が減少したのは、部品の生産工場が被害を受け、車が生産できなくなったことに気づかせる。	【教材③】  【教材④】 	T：東日本大震災によって水産業はどのような影響を受けたでしょうか。教科書からわかることはありますか？ (C：港や漁船に大きな被害が出ている, 漁港の水揚げ量が減少している) T：では, 農業についてはどのような影響を受けたでしょうか。 (C：田畑が津波で流された、田畑や作物が海水につかったため育てることができなくなった) T：では, 自動車の生産台数はどうなっているでしょうか。 (C：3月から5月にかけて生産台数が大きく減少している。) 参考資料①を配布する。 T：では、どうして3月～5月に生産台数が減少したのでしょうか？ (C：部品を生産する工場が被災して部品を生産することができなくなったため。) 【教材③】、【教材④】を黒板にはる (C：農地が海水で水浸しになっている, 塩水の影響で作物が作れなくなった) 参考資料②を配布する。 T：参考資料を見ると農業や水産業に大きな影響を与えたことがわかります。
まとめ (10分)	○これまでの学習を振り返り、自然災害が発生するとわたしたちへのくらしや産業へ大きな被害が出ることを理解する。 ○自然災害から命や大切なものを守るために、国や自治体がどのような取り組みを行っているか学ぶことを伝える。	●暮らしや産業にも大きな影響を及ぼす自然災害を防ぐ方法はないのかという思いを膨らませる。		T：これまでの学習を振り返って、自然災害が発生するとどのような影響がありますか？ (C：命が奪われる, いつもと同じ生活が送れなくなる, 産業へ影響が出る) T：自然災害から命や大切なものを守るために、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

(9) 板書計画



(10) 評価のポイント

○主体的に学習に取り組む態度

これまでの学習を振り返り、学習問題について予想と違ったことや新たな未聞を話し合うことにより、自然災害に対する備えや取り組みについて関心を持ち、意欲的に迫りしうとしている。

○「自然災害に備えるために」（第5時）

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害から人々を守る」（全6時間）の展開の時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・身近な事例として川内川流域で行われている取り組みを取り上げる。
(3) 学習方法の工夫	・資料から、自然災害からの被害を減らすために、国や県、市町村はどのような対策や備えをしているか、資料から読み取って話し合わせる。
(4) 本時のねらい	・国や都道府県、市町村などが自然災害から私たちの命やくらしを守るために、防災施設を作るとともに各種情報の発信、避難の勧告や告示、避難場所の整備などに取り組んでいることを理解することができる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・日本文教「小学社会5」P.274～275 指導書：・日本文教「小学社会5」教師用指導書 指導編 P.274～275 ・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 研究編 P.336～337

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①土石流発生前後の砂防ダム	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②台風通過前後の鶴田ダムの貯水位	板書	
③川内川流域で行われている自然災害を防ぐための取り組み	板書	
④地デジデータ放送	板書	
⑤川内川河川事務所「早よ見やん川内川」 < http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/ >	I C T 板書	付属 DVD・インターネット
⑥気象庁ナウキャスト	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
⑦洪水警戒レベル		
⑧緊急地震速報		
⑨津波警報		
⑩霧島山の噴火警戒レベル		
⑪ハザードマップ		

(7) 参考資料

教材名	使用方法	備考
—	—	—

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (5分)	1 前時のふりかえり 2 教科書の砂防ダムや水をためたダムの写真から、自然災害を防ぐための取り組みについて興味を持たせる。 めあて：自然災害を防ぐために、どんな取り組みが行われているのだろうか。	●国や都道府県による自然災害を防ぐための取り組みが行われていることに興味を持たせる。	【教材①】 【教材②】	T：前回の授業では、自然災害が発生すると私たちのくらしや産業に影響が出たことを学習しました。では、自然災害による被害を防ぐことはできないのでしょうか？ <u>【教材①】、【教材②】を黒板にはる。</u> T：これらの写真を見て、気づくことはありますか？ (C：土石流をせき止めて土が溜まっている, 台風の後水が溜まっている) T：これらの施設は自然災害による被害を防ぐための施設です。今回はこのような自然災害を防ぐための取り組みについて学習していきましょう。
展開 (30分)	3 国や県、その他の市町村が行っている自然災害を防ぐための取組みを調べる。 4 国や県、その他の市町村が行っている自然災害が発生したときのための取組みを調べる。	●身近な事例として、川内川流域で行っている防災対策を取り上げる。 ●自然災害が発生したときに備えて、準備していることに気づくようにする。	【教材③】 【教材④～⑪】	T：自然災害から守るために、行われている取り組みについて、写真や教科書をヒントに考えましょう。 (C：堤防、分水路、津波ステーション、ダムなど) <u>【教材③】から、児童の発言に合わせて黒板にはる。</u> T：国や県、市町村が自然災害を防ぐために様々な取り組みを行っていることがわかりました。それでも、自然災害を全て防ぐことは難しく、最近でもえびの市内で洪水による被害が発生しています。 T：では、自然災害が発生したときのためにどのような取り組みが行われているのでしょうか。教科書や資料をヒントに考えましょう。 (C：防災無線、災害警報、ハザードマップなど) <u>【教材④】を生徒の発言に合わせて黒板にはる。</u>
まとめ (5分)	○国や都道府県、市町村による自然災害を防ぐ取り組みを行っている。 ○自然災害が発生したときに自分たちに何ができるだろう。	●自然災害に対してさまざまな取り組みを行っているが、自然災害を全て防ぐことはできないことを意識させる。		T：国や県、市町村では自然災害の被害を減らすための取り組みをしていますが、それでも自然災害やその被害を全て防ぐことはできません。 T：自分の命を守るためには、自分の判断で行動しなければいけません。

(9) 板書計画

自然災害を防ぐために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

・砂防ダムが土砂をせき止めている
・台風通過後にダムの水位が高くなっている

自然災害を防ぐための施設

堤防

分水路

河道掘削

津波タワー

・自然災害を防ぐために様々な施設が作られている

↓

予想以上の災害が起こったらどうする？

・警報や注意報により災害の発生を知らせる
・ハザードマップにより危険な場所を知らせる

自分の命を守るためには、自分の判断で行動しなければいけない

(10) 評価のポイント

○知識・技能

国や都道府県・市町村などが、河川の掘削や拡幅、河川の水位情報などを公表するなど、自然災害の被害を減らすための防災施設を整備していることを理解している。

○「自分たちの命と地域は自分たちで守る」(第6時)

(1) 本時の位置づけ	5年生社会「自然災害から人々を守る」(全6時間)のまとめの時間として位置づける。
(2) 指導のポイント	・国や都道府県が自然災害を防ぐ取り組みを行っているが、想定以上の災害が発生した場合や突然巻き込まれた場合など、限界があることに気づくようにする。 ・日本はでは、いつでも、どこでも、誰でも自然災害に合うかもしれないことや「公助」だけでなく「共助」や「自助」の取り組みが大切であることに気づかせる。
(3) 学習方法の工夫	・地域のハザードマップを活用して、災害にあった時の避難場所や家族の集合場所などを話し合う。
(4) 本時のねらい	・これまでの学習を振り返り、自然災害から命や大切なものを守るために、自分にはどのような備えが必要かを考えることができる。
(5) 教科書・指導書 該当ページ	教科書：・日本文教「小学社会5」P.276～277 指導書：・日本文教「小学社会5」教師用指導書 指導編 P.276～277 ・東京書籍「新しい社会5 下」教師用指導書 研究編 P.338～339

(6) 必要なもの

教材名	使用方法	備考
①東日本大震災発生直後の避難行動	板書	付属 DVD（教材データ集）に収録
②令和 2 年出水の住民救助状況（えびの市）	板書	
③平成 18 年洪水の体験談	動画	
④ワークシート 6	PDF Word	
⑤自然災害に備えて私たちにできること （ワークシート）	配布	
⑥非常用持出袋（写真）	板書	
⑦町内一斉防災訓練（さつま町）の写真	板書	

(7) 参考資料

資料名	形式	備考
①非常時持出品カード	PowerPoint	付属 DVD（教材データ集）に収録
②川内川防災教室	PDF	
ワークシート 4	PDF Word	

(8) 学習の過程

流れ	学習活動・内容	教師の働きかけ	教材解説	教師の発問（児童の反応）
導入 (5分)	1 前時のふりかえり 2 なぜ、災害が発生しても避難しない人がいるか考える。 めあて：自分の命を守るためにはどうすればいいのだろう。	●多くの人がすぐに避難していないことに気づくようにする。	【教材①】  東日本大震災発生直後の避難行動 【教材②】  令和2年度出水の住民救助状況(えびの市)	T：前回の授業では国や県・市が、自然災害からみなさんの生活を守るために、さまざまな取り組みをしていることを学びましたが、みなさんは自然災害から自分の命を守るために気を付けていることはありますか？ 東日本大震災発生直後の避難行動【教材①】，令和2年度出水の住民救助状況【教材②】を黒板にはる。 T：これらの写真やグラフを見て、気づいたことはありますか？ (C：すぐに避難していない人が多い，レスキューの人に住民が救助されているのはなぜ、避難をしていなかった)
展開 (20分)	3 平成18年洪水の体験談VTRを見て、逃げ遅れないためにはどのようなことをしなければならないかを考える。 4 ワークシートを見て、さつま町で多くの人々を救助しなければならなくなった理由を考える。 ○ 危機感がなかった。 ○ 1人で逃げずに待っていた。 ○ 呼びかけに応じなかった。 ○ 見回りが足りなかった。	●活用できる防災情報を知り、避難に備えることの大切さに気付かせる。	【教材③】  平成18年洪水の体験談VTR ※洪水の体験談はVTRの3分11秒から始まります。 【教材④】  平成18年洪水時の避難者・救助者の声	<u>平成18年洪水の体験談VTR【教材③】を見せる。</u> T：お話をしてくださった方たちはなぜ逃げ遅れてしまったのでしょうか。 (C：今までの経験上油断をしていたから，災害情報を知らなかったから…) <u>ワークシート【教材④】配る。</u> T：平成18年のさつま町の水害では，亡くなられた方は1名でしたが，消防や警察に救助された人は237名もいました。 T：さつま町ではなぜ237名も救助される事態になったのでしょうか。平成18年洪水時の避難者・救助者の体験談から分析して，ノートにまとめましょう。 T：では発表してください。 (C：避難を呼びかけたけど応じてもらえなかった。) T：なぜ応じてもらえなかったのでしょうか。 (C：これまで大丈夫だったから。危機感がなかったから。)
展開 (15分)	5 グループで災害に備えてできることについて話し合い，「災害に備えて私たちにできること」と題したリストを模造紙などに作成し，発表する。	●これまでの学習をふりかえらせ，防災・減災に必要なことを考えさせる。 ●洪水の時は，1人で避難するのは危険なため，2人以上で避難することを指導する。 ●避難勧告等が発令されたり，危険を感じたりした時は，速やかに避難することを指導する。	【教材⑤】  自然災害に備えて私たちにできること(ワークシート)	T：もしまたえびの市で自然災害が起こってしまったときのために，皆さんが自分や家族のためにできることはないでしょうか？ (C：情報をチェックする，避難訓練をしておく，防災マップを見ておくなど) T：洪水や土砂災害が発生しそうときには，このようにいろいろな方法でみなさんへ情報を発信します。情報を集めて避難に備えることが大切です。 T：おうちの方と防災マップを確認して，避難場所や安全な避難経路を家族で話し合ってみましょう。
まとめ (5分)	○自然災害は、どこでも起こる可能性があり、発生すると大きな被害が発生する。 ○国や都道府県は自然災害を防ぐための取り組みをしている。 ○自然災害を完全に防ぐことはできないため、一人一人の備えが重要である。	●国や都道府県，市町村の取り組みに加えて，一人ひとりの備えが重要であることに気づかせる。	【教材⑥】  【教材⑦】 	T：自然災害が発生すると私たちの暮らしに大きな影響を与えます。 T：自然災害を防ぐために国や都道府県がさまざまな取り組みを行っていますが，全ての自然災害を防ぐことはできません。みなさん一人ひとりが防災への知識と心構えを持つことで，自然災害の被害から命を守ることができるのですね。

(9) 板書計画



・こう水で取り残された
・消防隊に救助された
・すぐにひなでできなかった



東日本大震災では42%の人がすぐにひなしていない

自分の命を守るためには、どうすればいいのだろう。

平成18年度こう水の体験談VTR

さつま町の人々はどうして避難しなかったのだろう？

- ・危機感がなかった
- ・一人で逃げずに待っていた
- ・呼びかけに応じなかった
- ・見回りが足りなかった

災害に備えてできることをグループで話し合う

発表内容を整理する

・自然災害はどこでも起こる可能性があり、発生すると大きなひがいが発生する
・国や都道府県は自然災害を防ぐための取り組みをしている
・自然災害を完全に防ぐことはできないため、一人一人の備えが重要



(10) 評価のポイント

○主体的に学習に取り組む態度

これまでの学習を振り返り、学習問題について、予想と違ったことや新たに気づいたことを話し合うことにより、自然災害から自分たちの命を守るために、どのような備えが必要かを考えようとしている。

<出典一覧>

○第1時

全国の自然災害の 写真	○地震(兵庫県)	(財)消防科学総合センター「災害写真データベース」 < http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do >
	○津波(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
	○噴火(宮崎県新燃岳)	宮崎県・鹿児島県 霧島山(新燃岳)噴火に関する政府支援チーム (2011)「霧島山(新燃岳)噴火時に噴石等から身を守るために」
	○台風(沖縄県宮古島市)	宮古島地方気象台提供
世界全体に占める日本の国土面積の割合(世界地図)		樹商事株式会社「世界地図」< sekaichizu.jp >
世界全体に示す日本の自然災害の発生回数の割合 (グラフ)		内閣府「平成 25 年版防災白書」(付属資料 35) < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h25/index.htm >
日本の国土の地形(グラフ)		総務省統計局「日本統計年鑑」 < http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index1.htm >
「台風はいつごろ近づくの」		国立情報学研究所「デジタル台風 KIDS」 < http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/kids/ >

○第2時

世界の地震の震源の分布	内閣府「平成 22 年版防災白書」 < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h22/index.htm >
世界の火山の分布	
日本／九州の断層マップ	国立研究開発法人 産業技術総合研究所「活断層データベース」 < https://gbank.gsj.jp/activefault/index_gmap.html >
南海トラフ地震／地震が起こるメカニズム	政府 地震調査研究推進本部 < https://www.jishin.go.jp/resource/pamphret/ >
南海トラフ地震	気象庁「南海トラフ ーその時の備えー」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq/index.html >

○第3時

東日本大震災の津波被害の写真(宮城県石巻市)	(社)東北建設協会提供
岩手県普代村の被害状況の写真(岩手県普代村)	普代村地域振興室提供
東日本大震災 気仙沼市内の避難所の様子	災害写真データベース < http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do >
東日本大震災時の避難所での給水活動	長岡京市 平成 23 年東日本大震災の応援給水活動報告 < https://www.city.nagaokakyo.lg.jp/0000002042.html >
東日本大震災 炊き出し活動	第 36 普通科連隊 災害派遣活動 < https://www.mod.go.jp/gsdf/mae/3d/36i/02-4_disasterrelief.html >
東日本大震災発生当日の停電発生状況	総務省消防庁「東日本大震災記録集」 < https://www.fdma.go.jp/disaster/higashinohon/post.html >
東日本大震災発生から一日後の市町村の断水分布図	
避難者数及び避難所数の推移	
避難所で過ごす中で困ったこと	株式会社ネオマーケティング「災害時の避難所に関する調査」 < https://neo-m.jp/SDGs-CSV/2465/ >

○第4時

大津港(茨城県)の津波被害の様子	災害写真データベース < http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do >
津波にさらされた工場	
宮城県川内市若林区荒浜周辺の被災前と被災後の現地状況	国土地理院「仙台市若林区荒浜周辺の被災状況(新旧画像)」 < https://saigai.gsi.go.jp/h23taiheiyo-ok/hikaku/arahama.pdf >
津波により浸水した農地	災害写真データベース < http://www.saigaichousa-db-isad.jp/drsdb_photo/photoSearch.do >
近年の農林水産関係被害額の推移	農林水産省 HP「平成 30 年度食料・農業・農村白書 特集 1 平成 30 年度に多発した自然災害からの復旧・復興」 < https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h30/h30_h/trend/part1/chap0/c01_00.html >

○第5時

土石流発生前後の砂防ダム	国土交通省多治見砂防国道事務所 中津川出張所 「わかる 砂防教室 中津川出張所編」
早よ見やん川内川(リアルタイム防災情報)	国土交通省九州地方整備局川内川河川事務所 < http://www.qsr.mlit.go.jp/sendai/bousai/sp/ >
気象庁ナウキャスト	気象庁「急な大雨・雷・竜巻ーナウキャストの利用と防災ー」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nowcast/index.html >
警戒レベル	気象庁「防災気象情報と警戒レベルの対応について」 < https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/alertlevel.html >
緊急地震速報	気象庁「緊急地震速報～まわりの人に声をかけながら あわてず、まず身の安全を！！～」 < http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eew/index.html >

○第6時

東日本大震災発生直後の避難行動	内閣府 HP「平成 23 年東日本大震災における避難行動等に関する面接調査(住民)分析結果」 < http://www.bousai.go.jp/kaigirep/chousakai/tohokukyokun/7/pdf/1.pdf >
-----------------	---

<参考文献>

- ・文部科学省（2017）「小学校学習指導要領（平成 29 年公示）解説 社会編」
- ・文部科学省（2020）「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）」
- ・国立教育政策研究所, 教育課程研究センター（2020）「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）」

お問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 川内川河川事務所 調査課

〒895-0075 鹿児島県薩摩川内市東大小路町20-2

TEL : 0996-22-3271 (代) FAX : 0996-22-6907 (代)